

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.T.	学部・学科	国際教養学部
学年	4	派遣国	ドイツ
派遣大学	フライブルク大学		
期間	2023年 10月 6日～ 2024年 7月 19日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 (一軒家の地下室)					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	○	冷暖房	暖房のみ	冷蔵庫	○
滞在費	約 (65,500) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(ترام) で、約 (18) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	25,000 円	
学用品購入費	5,000 円	ドイツ語の教科書のみ
交通費	3,000 円	トラムはセメスターチケットを購入
交際費	30,000 円	学生バーなど
その他	50,000 円	旅行,洋服など

合計

円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

フライブルクの街全体は比較的安全。夜間等に一人で帰宅することも可能。ただ、中央駅横、Stulinger 前の公園は夜間のみ危険。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114,380) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Techniker Krankenkasse		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(月額約 19,200) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 (**フライブルク・イム・ブライスガウ**)
大学都市。エコロジカルで、トラムや自転車での移動が便利であり、治安も良く学生にやさしい。街の中心地 (old city) には大聖堂があり、マーケットが開催されていたり、便利なショッピングモール等も集まっていたりして、物資の調達等に困ることもなく便利で非常に住みやすい。大学図書館がたくさんあるため、勉強や作業をする場所にも困ることがないが、同じ学部でも街のさまざまな場所にて講義が行われるため、教室の移動がかなり長距離になる。自然豊かで、湖や山など、のびのびとした生活を送ることができる。加えて、留学生や現地学生で溢れた学生都市であるため、国際色が強く、英語も比較的伝わる。ただ、外国人登録のビザオフィスはかなり業務が遅く、ビザの発行はかなり遅くなる可能性が高い。

【学業編】

1. 大学情報

大学	フライブルク大学	所在地	フライブルク
最寄空港	ユーロエアポート・バーゼル＝ ミュールーズ空港	空港からの距離	バスで約1時間
空港⇄大学	(Flix Bus エアポートバス) *移動手段		
学生数	24,500	留学生数	4,000
学部	神学、法、経済と行動科学、言語学、人文科学、数学と物理学、工学、生物学、 医学、化学と薬学、地球科学等 *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Liberal Arts and Sciences (University College of Freiburg) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ語 A1.2 ● International law and international security 	<ul style="list-style-type: none"> ● Media History 	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ語 ● International law and international security 	<ul style="list-style-type: none"> ● Media History 	
午後	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館で予習等 	<ul style="list-style-type: none"> ● Environmental conflicts 	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館で予習等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館で予習等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館で予習等

② (4)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習等 	<ul style="list-style-type: none"> ● Conscious Intercultural Communication 	<ul style="list-style-type: none"> ● Governing mobility 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習等
午後	<ul style="list-style-type: none"> ● Law, State, Society 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習等 	<ul style="list-style-type: none"> ● Law, State, Society 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆったり過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゆったり過ごす

3. 履修内容

科目	International Law and International Security		
履修期間	2023/2024 Winter Semester	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	セミナースタイル。ガバナンス専攻。安全保障中心だが、国際法一般について学ぶことができる。毎回リーディングの予習あり。授業の各回に一人一人に割り当てられるプレゼンテーションがあり、発表の最後に生徒が用意したディスカッションクエストを基に議論、質疑応答を行い、最後に先生が補足説明、講義を行う。		
成績	2.0		
YCU 振替予定	科目		
	単位数	2	
	担当教員		

科目	European media history of everyday life in the post-1945 World Order		
履修期間	2023/2024 Winter Semester	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	レクチャースタイル。カルチャー＆ヒストリー専攻。メディア史に関する講義。回によってリーディング予習あり。資料分析として、昔のラジオ、テレビ、雑誌といった一次資料を取り扱う。メディアに関するトピックを選び、比較的自由的な形態にてグループプレゼンテーションを行う。ヨーロッパにまつわる歴史、題名にもあるように、特に冷戦期のバックグラウンドを理解している必要がある。		
成績	2.0		
YCU 振替予定	科目		
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Environmental Conflicts		
履修期間	2023/2024 Winter Semester	単位数	6 ECTS
授業内容／形態	レクチャースタイル。エンバイロメンタル・サステイナブルサイエンス専攻。予習で提示された資料や学術書をあらかじめ読んでおき、授業ではその理解や新たな疑問、批判等について幅広くディスカッションする。また、特定の環境問題について自分で資料を持ち寄り、プレゼンテーションを行う。学期末には他講義受講の学生とのカンファレンスに参加し、自身のリサーチ内容をポスター作成にて発表、意見交換。		
成績	1.7		

YCU 振替予定	科目	
	単位数	2
	担当教員	

科目	Law, State, Society		
履修期間	2024 Summer Semester	単位数	8ECTS
授業内容／形態	<p>セミナースタイル。欧州人権裁判所をはじめとした裁判所の判例を扱い、さまざまなコンセプトに対する国家や社会の法的なアプローチ、法の意義、あり方について学ぶが、個人的には正直かなり難しかったと感じる。各回にプレゼンテーションかディベートがあり、私はアメリカの合衆国憲法とドイツ基本法における表現の自由に対するアプローチについてのディベートをクラスメイトと二人で行った。クラス内での発表と中間・期末レポートの他に、制限時間の設けられたオンラインでの期末試験があった。</p>		
成績	2.3		
YCU 振替予定	科目		
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Conscious Intercultural Communication		
履修期間	2024 Summer Semester	単位数	6ECTS
授業内容／形態	<p>セミナースタイル。異文化間コミュニケーションに関する講義。国籍や地域、世代などさまざまな要因が構成する異文間で経験する、日常的な気づきや、意識していたことが言語化され、学術理論や概念として紹介されている。また、異文化間でのコミュニケーションにおいて何が重要なのか、あるいはコミュニケーションを円滑に進めるために必要なことについて学ぶ。</p>		
成績	TBA		
YCU 振替予定	科目		
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Governance mobility Policy Making for Immigration and Displacement		
履修期間	2024 Summer Semester	単位数	6ECTS

授業内容／形態	<p>セミナースタイル。人の移動に関する講義。移民と難民の違いについての問いから始まり、予習のリーディングをふまえての意見交換や地球規模で起きている人の移動に関する問題の紹介や分析。自身の関心をもとに行うリサーチと発表もある。また、フライブルクにある難民登録所への見学等もあり。</p>	
成績	TBA	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	2
	担当教員	

<総括>

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

留学生生活を通して体得したことは、あらゆる環境で自分らしく生き延びるための力であったように感じる。さまざまな生活の側面、人間関係においての常識や価値観が大きく異なり、自分がどのようにあるべきなのかということが強く問われているように感じた。そのような環境下でも、考えなしに自分を無理やり適応させようとするのではなく、どのように自分らしく楽しみながら過ごせるか思考し、行動できた。一見トラブルを引き起こしかねない要因である文化の違いに対して、常に理解し尊重ようとする姿勢を欠かさず、同時に自他との境界線をしっかり引くことが重要だと実感した。ミスコミュニケーションが起きないように、積極的なコミュニケーションを心がけながら、また、バックグラウンドや大まかに言えば文化の違いに基づいて起こる摩擦や事象についてストレスを抱くのではなく、なにが変化をもたらすのか、どのように妥協し合えるのかということを日々模索することが必要であり、それが留学生活の中でのやりがいであり自分にとっての楽しみでもあったと考える。さまざまな経験を繰り返す中で、自他との間で起こる問題にポジティブに取り組む姿勢を欠かさないようにすることを学び、友人からも進取の気性に富んでおり、親しみやすいと評価されることがたくさんあった。ステレオタイプと、その人としての個人的なあり方に対する見方に境界線を引くことの意義も学んだ。国籍や個人を取り巻く要因に基づくステレオタイプに翻弄され、先入観から人を判断することがないようにする姿勢を心がけるようになった。

結論として、一見難題に直面しているように捉えられる環境下においても、常に解決策を模索しながら、同時に自分らしさを失わず楽しんで乗り越えられる力、またコミュニケーション能力一般を培ったように思う。また、渡航前と渡航後の自分を比較した際に、交渉力という点においても変化があるように感じる。ビザ等の事務的な手続きに苦戦したり、日本では見たことのないデモンストレーションの形態や頻度を目の当たりにしたり、友人たちが率直に意見を伝えていたりする多種多様な状況下において、自分の意見、立場、要求などを率直に明確に伝えるということについて深く考えるようになり、実践していた。これにより、直接的かつ多様なコミュニケーション、また自己主張の重要性を学び、実際に自分の伝えたいことを理解してもらった交渉力が培えたように思う。英語運用能力は言うまでもなく、多彩な表現やニュアンスまでの理解が深まったと実感する。

幸いにも、たくさんの多様で暖かな友人たちに恵まれた留学生活だったが、異国の地でマイノリティーとして生きることは決して簡単なことではないと実感した。いわゆる人種差別者に遭遇したこと、また敵意はなくても単なる好奇心や無知から向けられる視線や適切でない表現など、いわゆる「外国人」としてある地に住むとはどういうことなのかと理解した。また、ドイツは移民が多く、どのように移民と現地人が関わりあうのかと言う点においても非常に考えさせられた。上で述べた内容との矛盾に聞こえるかもしれないが、自分自身にもたらさなければならない変化についての重要性である。一つのエスニックグループとしてかたまり孤立するというより、多様性と個々の尊厳の保護のもと、ある種現地への尊重と同化の姿勢も重要になるだろうと感じた。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

自分にとっての興味関心、やりがいの根源は国際的な関わりの中にあると再確認することができたため、これを機に将来自分がどのような分野に携わりたいかをより具体的に考えて就活を行っていきたい。この経験が後の自分の人生にとって大きなターニングポイントとなるのか、実際にどのような影響をもたらすのかは未来の自分が振り返ってみて初めて分かるものだと思うが、かけがえのない留学経験とそこで得たさまざまな力を自身の人生の多方面に活かすことができるよう、英語学習の継続や現地で得た知見等をいつまでも忘れず、またこの経験のみに固執する人生にならないようさらなる努力を怠らないようにしたい。また、留学生として見たものや感じたこと、経験したことは貴重であり、日本との違い、日本と外国の長所短所をしっかりと伝えられる存在でありたいと思う。

また、チューターとして留学生をサポートすることが決まっているため、自分の経験をもとに、留学生に寄り添いながら手厚く支えられるようにしたい。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

留学は、全ての過程を振り返ると楽ではありませんが、非常に楽しく、自分の人生を豊かにしてくれるような経験につながるきっかけになるものだと思います。細かくなりますが、私は当初アメリカでの留学を希望していましたが、最終的にヨーロッパはドイツのフライブルクでの留学に参加することとなりました。フライブルクでの留学を終えた私からお伝えできることは、ヨーロッパに留学する意義の大きさにあると思います。個人的には、ヨーロッパで英語力を高めることは十二分に可能である上、さらなる多様性と国際的交流を経験できる点においては留学には非常に適していると感じました。少なくともフライブルクでは、大学生として関わるコミュニティはドイツ人学生の外にたくさんの Erasmus 留学生で溢れており、中央ヨーロッパに位置しているため地理的にもシェンゲン協定により開かれた国境のためさまざまな国を旅することができ、歴史や文化に触れることができます。渡航先に関しては、英語をはじめとした語学的要因だけでなく、その他さまざまな点に着目して決めるのがいいかと思われます。また、困った時は「なんとかなる、する」の精神と、何かを頼んだり助けを求めたりする能力も大切だと思いました。